

みらいをつくる

発行: 泉佐野市教育委員会
教育部【2023年11月22日】

第三中学校区 和い輪いまつり

10月15日(日)、「第19回和い輪いまつり」が和い輪いネット(第三中学校区地域教育協議会)主催で4年ぶりに開催されました。

10時からの会場の長坂小学校体育館における開会式では、第三中学校大倉校長先生、泉佐野市教育委員会奥教育長のあいさつの後、長坂小学校の先生たちによる「カントリーロード」の合唱があり、楽しい雰囲気の中、一斉に各ブースの催しがスタートしました。小さな子どもから第三中学校区の小学生、中学生、卒業生まで、たくさんの子どもたちで会場は熱気に包まれました。



体育館内ではストラックアウト、くじ引き、輪投げ、オセロ、型抜き、けん玉等のコーナーがあり、屋外では、スーパーボールすくいその他、飲食コーナーも大盛況でした。早々に完売して拍手が沸き起こるブースがあったり、最後の駆け込みで食べ物を買ってくる子どもやおとなの姿があったりと、まるで縁日のようにあちらこちらで笑顔があふれていました。「日ごろから、顔の見える関係を」という第三中学校区の地域の方の願いが実現していることが感じられます。今後も地域の絆を大切にしたいと感じた和い輪いまつりとなりました。



佐野中学校区 すこやかフェスタさの



前日の午後から降り続いた雨で開催できるか心配されましたが、未明には雨もやみ、開会セレモニーが始まる頃には太陽も顔をのぞかせる秋晴れとなった10月15日(日)、佐野中学校で「すこやかフェスタさの」が開催されました。

佐野中学校区の地域教育協議会のメンバーである青少年指導員や各校PTA、地域の方々や中学校の生徒会などが工夫を凝らしたゲームや模擬店などを出店し盛大に行われました。

開会式では地域教育協議会の会長、泉佐野市長のあいさつに続き、第二小学校の有志保護者のコーラスや佐野中学校吹奏楽部の演奏があり、フェスタのオープニングにふさわしい盛り上がりを見せてくれました。開会式の後には毎年恒例!本物のロケットにも引けを取らないミニロケット発射体験がありました。カウントダウンで発射スイッチを押す瞬間は緊張で真剣そのものの表情だった参加者もロケット発射が成功すると笑顔になっていました。



ロケット体験の後は、いよいよグラウンドで模擬店のスタート。ターゲットボールにくじ引き、輪投げ、コイン落とし、ヨーヨーつり、絵手紙、AED講習、さらにスタンプラリーなどの体験型ブースに加え、お茶やジュース、かき氷、ソースせんべいなどの模擬店があり、参加者はそれぞれの興味に沿って、思い思いに楽しんでいました。どのブースにも長い列ができ、大変にぎわっていました。

フェスタの最後は和太鼓グループによる力強い和太鼓の生演奏で締めくくられました。

子どもたちを中心として地域・保護者・学校がそれぞれに工夫を凝らしてつながりを強めきずなを深めることができた素晴らしい日となりました。

防災について学びました ～災害を「知り」「備える」ために～

11月2日(木)、東日本大震災を経験された災害伝承語り部 吉田亮一さん(消防庁防災アドバイザー)に宮城県仙台市から泉佐野市に来ていただき、第一小学校(1~6年生)、長坂小学校(4~6年生)、日根野中学校(1~3年生)にて講演会を開催しました。

「地球は生きているから自然災害が起きる」「普段の備えや準備が大切」など、わかりやすい説明の後、登下校時に気をつけること、地震が起こった時の避難のしかた、地震発生時の机の下へのもぐり方、おうちで寝ている時の姿勢等、具体的な場面での説明がロールプレイを交えて行われました。また、防災用品の中身や置いておく場所、自分の住んでいる地域の避難場所の確認など、日ごろから意識しておく点についても助言がありました。



長坂小学校では、3時間目の講演の後、4時間目に子どもたちが「物資班」「設営班」「誘導班」「情報班」「衛生班」「炊出し班」「受付班」「総務班」にそれぞれ分かれ、災害発生を想定した避難所運営を実際に体験しました。

講演の最後は、前のスライドに映された「いつもみんなが助け合い、協力して、命の大切さと人を思いやる気持ちで、仲良く暮らし、災害に勝ちましょう」の文章をみんなで確認しました。

11月5日は「津波防災の日」。子どもたちにとって、これからの防災・減災について考えるよい機会となりました。

